

国立大学法人香川大学学長候補適任者所信

平成27年5月19日

国立大学法人香川大学学長選考会議議長 殿

学長候補適任者 氏名 加野 芳正 (自署)

法律の改正によって学長の権限が著しく強化されました。だからこそ構成員の声が反映できる柔軟な仕組みを構築し、多元的な教員参加のありかたを工夫していきます。教育研究の内容はきわめて多様であって、当事者でなければ十分な判断ができない要素があるからです。

他方で、部局の壁をこえて、全学規模での進路に関する意志決定を行ったり、さまざまなプロジェクトを企画・実践したり、大学の代表として、学長がリーダーシップを発揮する必要に迫られる局面が飛躍的に拡大しています。その場合でも、大学としての意志決定プロセスを大切にし、説明責任を果たしていきます。

私は以下の6点を重要課題として、香川大学の運営にあたります。

第1に、香川大学の長期ビジョンを策定し、香川大学の進むべき方向性を常に見定めながら、大学を運営していきます。少子高齢化、国や地方の財政難、大学政策の不透明感など、香川大学を取りまく環境はいつそう厳しさを増していくことが予想されます。そのために、10年、20年後の香川大学を想定した長期ビジョンを策定していきます。国立大学の経営統合の可能性も視野に入れながら、四国の国立大学全体の教育研究能力を高め、その中で香川大学が基幹的役割を担えるよう構想していきます。

第2に、国からは機能強化の方向性を明確にするよう求められています。そのため、本学では人材育成や地域課題を解決する取り組みなどを通して地域に貢献しつつも、希少糖研究をはじめとする強み・特色のある分野で、世界ないし全国的な教育研究を展開していきます。

第3に、新学部・新学科の創設に全力を注いでいきます。本学は、第2期中期目標の中に「新学部を設置」することを書き込みましたが、この計画は現体制になって取り下げられました。しかし、(1)ミッションの再定義を踏まえた教育学部人間発達環境課程の廃止や、経済学部における入学定員の縮減などへの対応、(2)平成25年、26年度を改革集中実行期と定めた「大学改革実行プラン」への対応、(3)入学志願者がかなりのレベルで減少していることへの対応、(4)地元香川県からの要望への対応といった観点から、高校生にとっての魅力ある新しい教育研究分野を開発していくことが喫緊の課題です。困難な事態を打開し、存在感のある大学にしていくために、2年以内に新学部・学科設置のめどを立てたいと考えて

います。平成9年に、地元香川県の支援を受けながら、香川大学の全学協力体制によって工学部を設置できたことは大きな成功体験であり、その再現を目指します。

第4に、中期目標・計画を着実に推進していきます。中期目標・計画はそれぞれの大学で異なっているので、その評価は順位を競うような性格のものではありませんが、計画を着実に実行し、高い評価を得ることは重要です。国立大学教育研究評価委員会による第1期中期目標・計画の評価結果は、国立大学86校中81位と低位に沈みました。このようなことがないように、計画を達成することにより教育研究の「成果」を上げていきます。そのために、ノルマをこなすという発想を捨て、どのような「成果」が上がったのかを常に検証していきます。中期目標・計画を着実に推進することによって高い評価を獲得し、それを運営費交付金の増額につなげていきたいと考えます。

第5に、入学志願者の獲得です。香川大学の弱点の一つは、地域社会において香川大学を目指す高校生が少ないことです。伝統的に県外（首都圏、関西圏）への進学志向が強いことも一因ですが、香川大学と地域教育界との結びつきが弱いことも背景にあります。そこで、教育委員会・高等学校やメディアとのネットワークを構築し、香川大学の優れた教育研究を広く高校生に伝達する仕組みを作ります。こうした広報戦略とは別に、大学が魅力的でなければ優れた高校生は集まってこないのです。教職員が一丸となって「入学したい」香川大学を目指します。

国では大学入学者選抜の改革が進められており、数年後には「大学入学希望者学力評価テスト」(仮称)が実施される予定です。この新しい制度を香川大学がうまく活用して、学習意欲のある学生を選抜し、香川大学の活性化に結びつけていくことも大事です。

第6に、学生支援の充実を図っていきます。一人ひとりの学生の潜在的な能力を伸ばし、「課題探究能力」を育成していくことが大学の使命です。そのためには、学生が主体的に学んでいくことが重要であり、それを支える学習支援が必要となります。このなかには、正課授業の支援だけでなく、留学支援、キャリア支援、学習支援、サークル活動支援、福利厚生支援などの幅広い内容が含まれます。学生が自主的に運営する「ボランティア支援センター」などの設置を含め、自ら課題意識を持ち、課題解決のために行動できる「香大生」を育てていきます。また、大学生活ではサークル活動やボランティア活動などの課外活動が、学生の人間的成長を促すとともに、人生の貴重な財産にもなるので、そのための施設の充実を図ります。

現在の香川大学は、次々に求められる改革の加速化に対応できず全国的にも後れを取っているのではないか、香川大学への社会の期待に十分応えられていないのではないか、と痛感することがあります。だからこそ、山積する難問の解決に向け、挑戦する香川大学でありたいと思います。そのためには、私自身が「挑戦者」なのだという気概を持ち、構想力やアイデアを提示ながら、取り組んでいくことが大事です。大学に課せられた「人類の未来に貢献する」という崇高な使命を、香川大学の改革を通して実現していきたいと思います。

※ 学長候補適任者としての抱負を含めて、2,000字程度を目安に記入してください。